

グラフでみる三重県内の経済情勢

(平成18年9月時点)

< 県内景気の現状 >

三重県内の景気は、回復している。原油・資源価格高などの抑制材料を抱え、中小企業を中心に企業の景況感の伸びは一服しているものの、内需回復、輸出増加を背景に、増収傾向を維持している。製造業の生産は、電子部品・デバイス関連を中心に一段と増加し、全国水準を大きく上回っている。設備投資は増勢が続き、大・中小企業、製造・非製造業を問わず、投資意欲は根強い。

企業活動が好調ななか、人手不足感が広がり、雇用・所得情勢は回復している。有効求人倍率は全国上位を維持し、所得はボーナスを中心に上向いている。需要面では、住宅投資が大幅に増加しており、個人消費は、加速感にかけるものを持ち直しの動きがみられる。一方、公共投資は減少が続いている。県内景気は全体としては回復しているが、地域や業種によっては温度差もみられる。

< 県内景気の先行き >

18年度下半期の県内景気は、高水準の原油・資源価格や外需の伸び鈍化などを背景に、一時的に景気拡大のテンポは鈍るものの、回復基調が続くとみられる。国内需要が好調に推移すること、また企業の経営課題が、過剰雇用・設備・債務の調整から、研究開発や人材育成など積極的な事業展開に移りつつあるなか、設備投資・雇用の拡大トレンドが持続し景気腰折れには至らない。

HRI 株式会社 百五経済研究所

担当：調査研究グループ 村田

TEL 059-228-9105

< 各項目の判断 >

項目	判断コメント	指標	頁
1. 景気判断	回復している 先行きも回復基調が続く	景気動向指数 (D.I、C.I) 業況判断D.I. 売上高D.I.	4~5
2. 生産活動	拡大している	鉱工業生産指数	6~7
3. 設備投資	増勢続く	機械・設備過不足感D.I. 設備投資実施企業割合	8
4. 雇用情勢	回復している	常用雇用指数 雇用人員過不足感 正社員の増減判断 有効求人倍率	9~10
5. 労働時間・賃金	増加している	所定外労働時間指数 賃金指数	11
6. 個人消費	持ち直している	大型小売店販売額 乗用車登録販売台数 消費支出 (津市)	12~13
7. 住宅投資	増加している	新設住宅着工戸数	14
8. 企業倒産	減少傾向	企業倒産件数 企業倒産負債額	15
9. 貿易	輸出入ともに増加している	通関輸出実績 通関輸入実績	16
10. 公共投資	減少傾向続く	公共工事請負金額 公共工事請負件数	17
11. 金融	貸出残高は増加している	貸出金残高 貸出金残高 (特殊要因調整後、 東海3県)	18

【三重県主要経済指標の推移】

HR(株)百五経済研究所
2006年9月

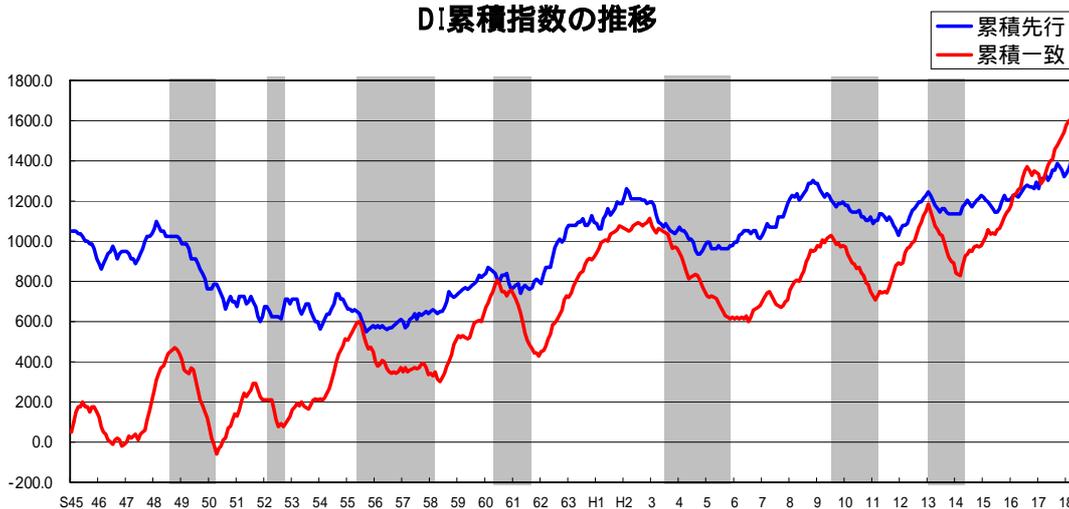
	2004年度	2005年度	2005年		2006年		2006年						
			7~9	10~12	1~3	4~6	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
1. 景気判断	景気動向指数 (D.I.、先行指数)	50.0	50.0	72.2	27.8	75.0	50.0	83.3	50.0	50.0	50.0	66.7	
	景気動向指数 (D.I.、一致指数)	55.7	71.4	76.2	71.4	71.4	57.1	57.1	57.1	71.4	42.9	57.1	
	(業況判断D.I.のデータ期間)	(04下)	(05上)	(05下)		(06上)		(06下見通し)					
	業況判断D.I.(全産業)	12.5	2.8	2.9		5.9		7.3					
	業況判断D.I.(大・中堅企業)	0.0	7.9	16.6		3.8		11.6					
	業況判断D.I.(中小企業)	15.2	6.1	1.3		8.7		12.7					
2. 生産活動	鉱工業生産指数(前年比)	14.6	11.4	16.8	11.7	17.9	15.6	11.6	16.7	20.8	11.8	24.4	
	鉱工業生産指数(前期比)	-	-	3.9	5.7	5.7	0.2	1.1	0.1	0.4	0.3	5.6	
	生産者製品在庫指数(前年比)	51.5	103.1	109.1	82.5	99.2	160.9	43.1	13.8	31.4	12.4	48.8	
	生産者製品在庫指数(前期比)	-	-	6.1	1.5	14.1	12.3	14.6	32.4	0.9	2.7	24.2	
3. 設備投資	(設備投資実施割合・設備不足感D.I.のデータ期間)	(04下)	(05上)	(05下)		(06上)		(06下見通し)					
	設備投資実施企業割合(%)	43.2	42.9	44.3		45.1		46.0					
	機械・設備過不足感D.I.	9.4	11.5	11.1		11.3		-					
4. 雇用情勢	常用雇用指数	0.4	1.9	1.4	1.6	3.2	2.5	3.1	2.8	2.6	2.3	2.3	
	(雇用人員過不足感D.I.のデータ期間)	(04下)	(05上)	(05下)		(06上)		(06下見通し)					
	雇用人員過不足感D.I.	16.8	17.6	25.3		22.4		-					
	有効求人倍率(季調済)(年度は原数値)	1.20	1.42	1.43	1.47	1.44	1.42	1.42	1.44	1.40	1.42	1.43	
5. 労働時間・賃金	所定外労働時間指数(全産業)(5人以上)(前年比)	8.1	2.3	0.3	0.3	5.3	6.3	1.8	3.5	7.7	7.7	1.0	
	実質賃金指数(前年比)	3.1	0.6	0.4	0.1	0.6	0.3	1.4	0.9	0.5	0.8	2.3	
6. 個人消費	大型小売店販売額(百貨店+スーパー)(既存店前年比)	3.0	1.7	0.2	2.6	2.7	0.9	1.2	1.8	0.1	1.5	1.8	
	新車登録台数(除軽)	67,343	64,631	5,310	4,742	6,700	4,364	9,401	3,804	3,885	5,403	4,860	3,477
	新車登録台数(除軽)(前年比)	0.7	4.0	3.5	15.2	4.4	8.9	3.7	11.9	12.4	3.9	19.6	6.7
	軽自動車販売台数	31,375	32,893	2,511	2,610	3,370	2,677	4,641	2,485	2,493	3,054	2,647	2,258
	軽自動車販売台数(前年比)	2.3	4.8	2.1	4.6	6.1	8.2	8.7	3.8	2.2	18.1	1.2	10.4
	消費支出(津市)(勤労者世帯)	0.2	5.5	0.0	2.2	11.7	7.1	15.9	2.0	12.2	14.3	40.6	
7. 住宅投資	新設住宅着工戸数(戸)	15,622	16,400	1,461	1,375	1,367	1,793	1,560	1,581	1,850	1,949	2,119	
	新設住宅着工戸数(前年比)	9.3	5.0	11.6	3.2	16.1	42.0	30.2	43.1	38.9	44.1	41.6	
8. 企業倒産	企業倒産件数	143	115	8	12	8	12	8	15	6	15	8	17
	企業倒産件数(前年差)	15	28	3	2	4	1	1	6	4	0	2	9
9. 貿易	通関輸出実績(億円)	8,695	11,562	919	1,005	1,063	1,105	1,156	1,039	1,046	1,230	1,149	1,148
	通関輸出実績(%)	31.3	33.0	33.5	23.8	38.2	27.4	45.3	19.1	19.9	43.3	18.9	26.4
	通関輸入実績(億円)	10,052	13,996	1,188	1,181	1,251	1,295	1,396	1,329	1,334	1,218	1,201	1,674
	通関輸入実績(%)	14.6	39.2	42.8	39.7	44.3	23.9	50.4	40.9	36.7	0.1	15.9	26.4
10. 公共投資	公共工事前払金保証取扱(請負金額)(億円)	2,063	2,049	222	132	128	153	202	214	79	164	187	170
	公共工事前払金保証取扱(請負金額)(%)	8.3	0.7	3.2	0.7	23.5	24.2	35.8	21.4	61.5	25.9	4.8	18.6
11. 金融	貸出金残高(前年比)(%)	0.8	1.3	1.9	2.1	1.5	2.1	1.2	1.6	2.2	2.7	2.0	1.7
	貸出平均残高(特殊要因調整後)(東海3県)	0.7	3.6	3.0	4.3	4.5	5.0	4.7	4.6	4.8	5.6	5.9	6.0

1. 景気判断 …景気は回復している。先行きも回復基調が続く。

景気動向指数 (DI・CI) からみた景気の現状と先行き (直近値：平成 18 年 7 月)

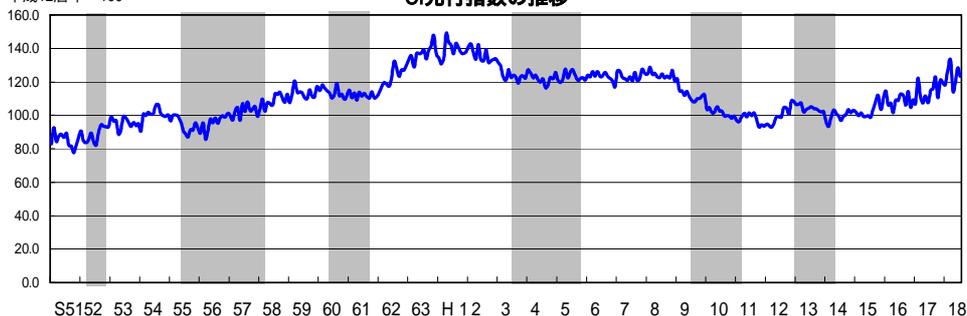
景気動向指数DIは、景気の現状を示す「一致指数」、半年程度先の景気を示す「先行指数」ともに拡大している。また景気のボリュームを表すCI指数(参考)は、高い水準で推移している。景気は回復しており、先行きについても回復傾向が続くとみられる。

DI累積指数の推移



平成12暦年 = 100

CI先行指数の推移



平成12暦年 = 100

CI一致指数の推移



網掛け部分は景気後退期を示す

景気動向指数(DI・CI)：景気に敏感な経済指標の動きを統合して、景気の現状把握や将来予測、景気の転換点を判定する総合的な景気指標。DIは景気局面など景気の方角性を、CIは景気の量感を表す。累積指数グラフは景気の転換点を視覚的に捉えやすいよう加工したもの。

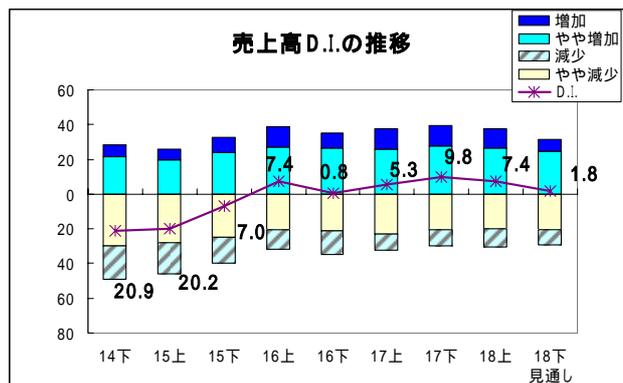
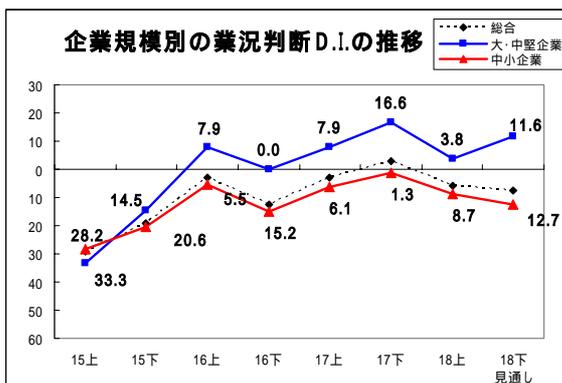
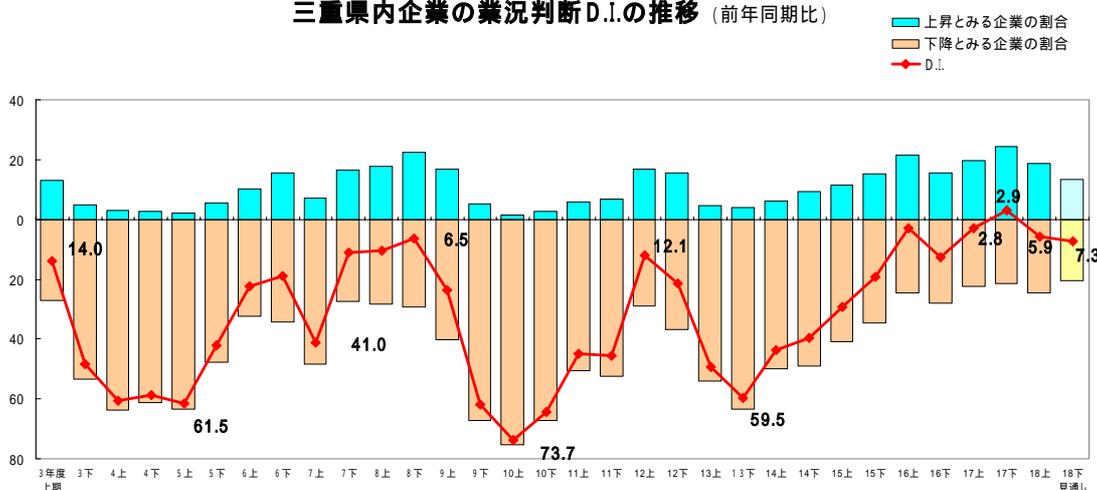
資料：三重県「三重県景気動向指数」

県内企業の景気判断からみた景気の現状と先行き

県内企業の景況感を表す業況判断 D.I.は、17 年度下期(+ 2.9)から一転して 18 年度上期は 5.9 に低下、18 年度下期見通し(7.3)もほぼ横ばいとなった。原油高に起因する仕入価格の上昇が、収益圧迫の要因となり、とくに製造業の中小企業を中心に慎重な見方が広がった。

しかし、現状、需要増を背景に販売数量は増加傾向を維持し、売上高判断 D.I.はプラスで推移、増収効果でコスト増をカバーしている。また、設備投資意欲が旺盛で人手不足感が続いているほか、研究開発や人材育成など先行投資的な課題への関心が高まっているなど、企業の足腰は依然強く、景気の腰折れにはつながらないとみられる。

三重県内企業の業況判断 D.I.の推移 (前年同期比)



業況判断 D.I. = (景気が前年同期より良い

とみる企業の割合 - 悪いとみる企業の割合)

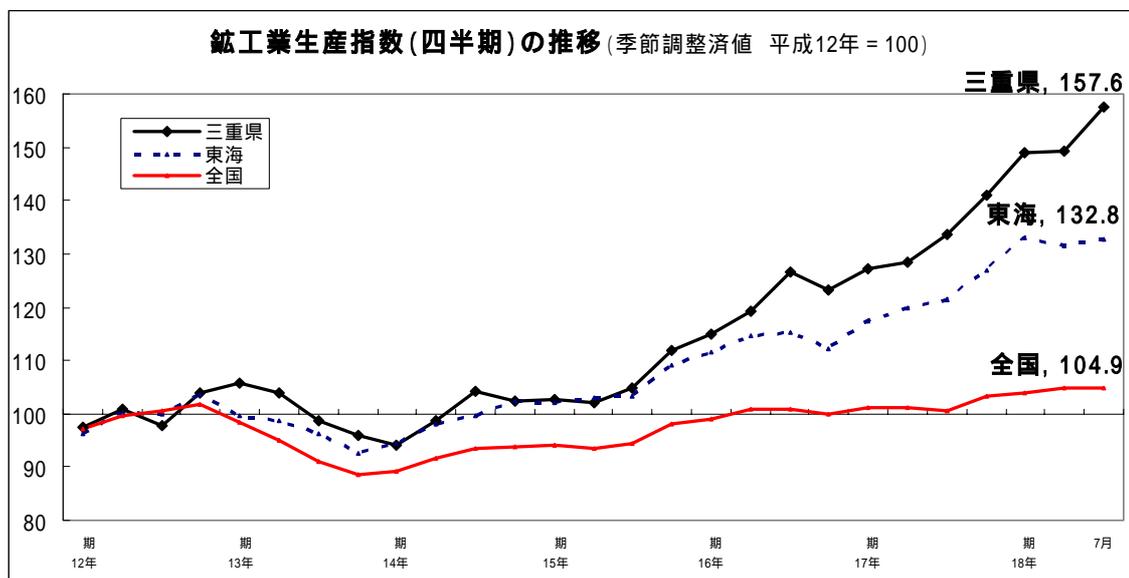
売上高判断 D.I. = (売上高が前年同期より増加・やや増加とみる企業の割合 - 減少・やや減少とみる企業の割合)

資料：当社調査「景況調査～18年度下期見通し～」

2. 生産活動 …拡大している

企業の生産活動の動き（生産数量）を表す鉱工業生産指数は拡大しており、全国比高い水準で推移している。

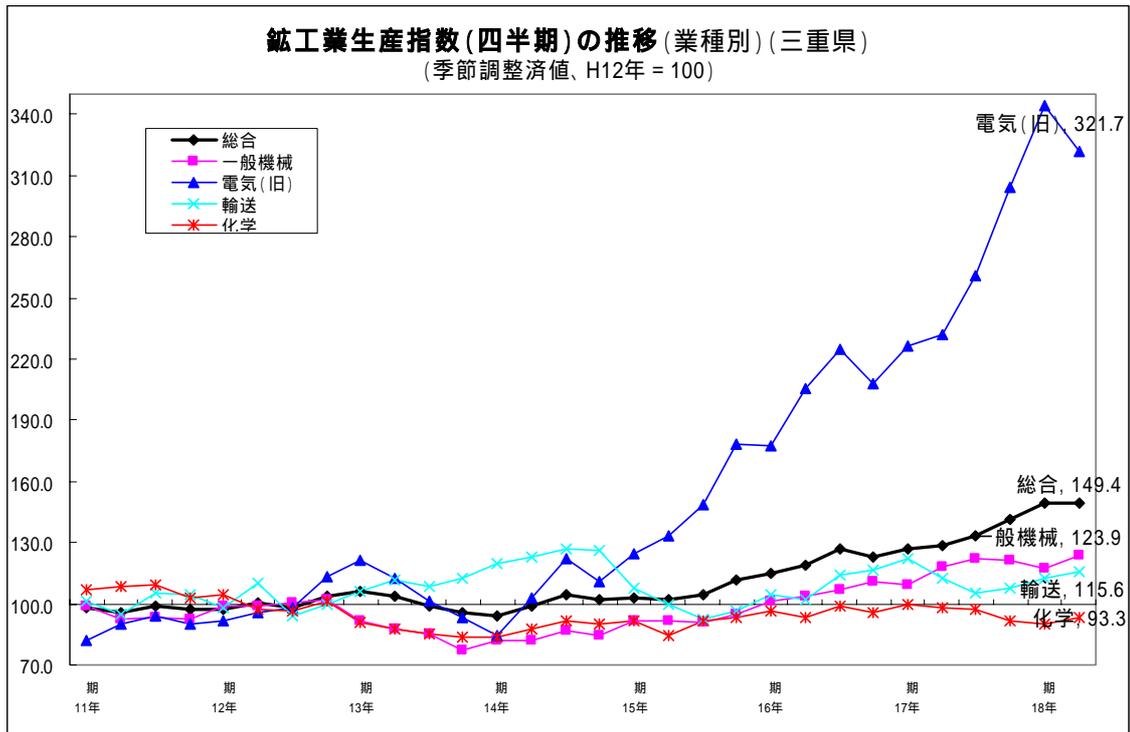
主要業種別では、電気機械工業（旧分類）のうち能力増強が続く電子部品・デバイス工業の伸びが著しい。需要が拡大している薄型テレビ、携帯電話、携帯音楽機器向けに、液晶素子、液晶表示装置、半導体集積回路等の生産が増加、積極的な在庫積み増しが行われている。また輸送機械工業は海外向け自動車为好調で、一般機械工業は企業の設備投資の増加を受け工作機械の生産が増加、いずれも生産指数は緩やかに上昇している。化学工業は一部に弱い動きがみられるが、国内需要は底堅く、輸出は韓国、中国向けを中心に堅調である。



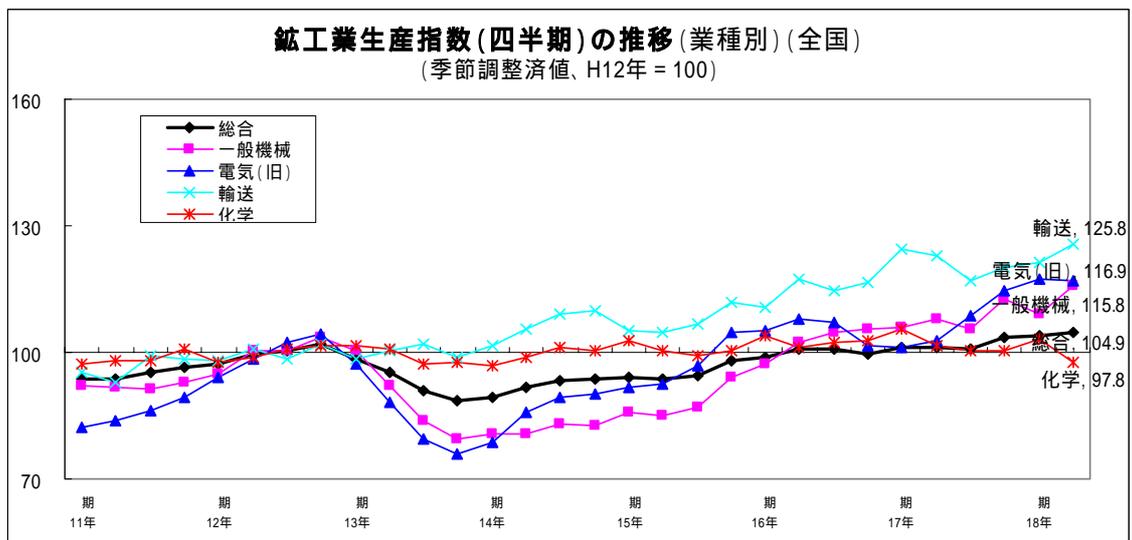
「東海」は愛知、岐阜、三重の3県

資料：三重県「鉱工業生産の動き」、中部経済産業局、経済産業省

< 主要業種別の生産活動の動き (三重県) >



< 主要業種別の生産活動の動き (全国) >



電気機械工業は旧分類の指数。電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業を合算した指数。

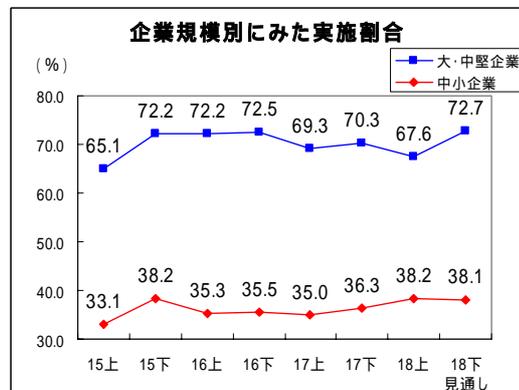
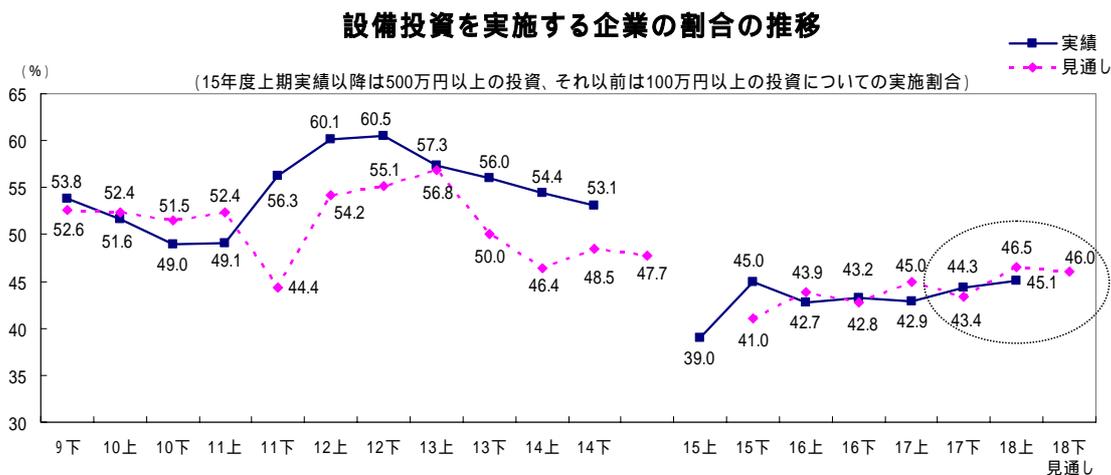
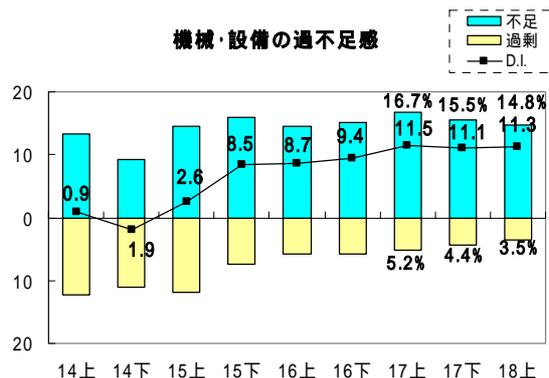
資料：三重県「鉱工業生産の動き」、経済産業省

3. 設備投資 …増勢が続く

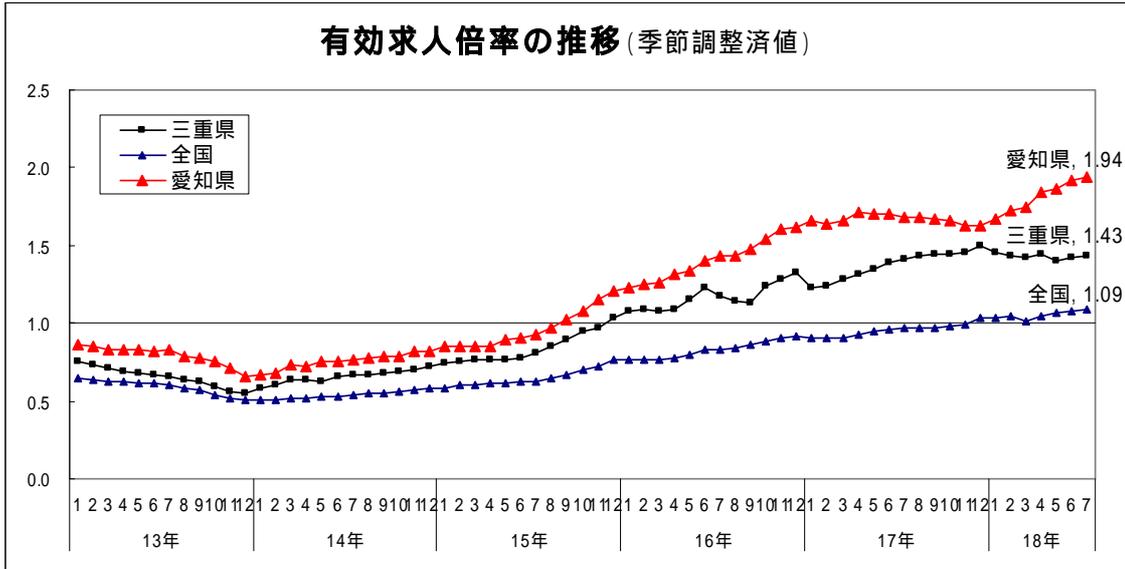
企業は中長期的視点に立った「攻め」の経営を進めるなか、大企業・中小企業ともに機械・設備の不足感が続いている。

設備投資を実施する企業の割合は上昇し、生産能力や販売能力の増強などの積極投資が増えるなど、設備投資意欲は持続している。

電子部品・デバイス、半導体などで大型投資が相次いでいるほか、一般機械、化学、自動車関連製造業や旅館・ホテル・レジャー、小売などの非製造業で投資実施割合は高く、また中小企業においても投資意欲は根強い。



資料：当社調査「景況調査～18年度下期見通し～」



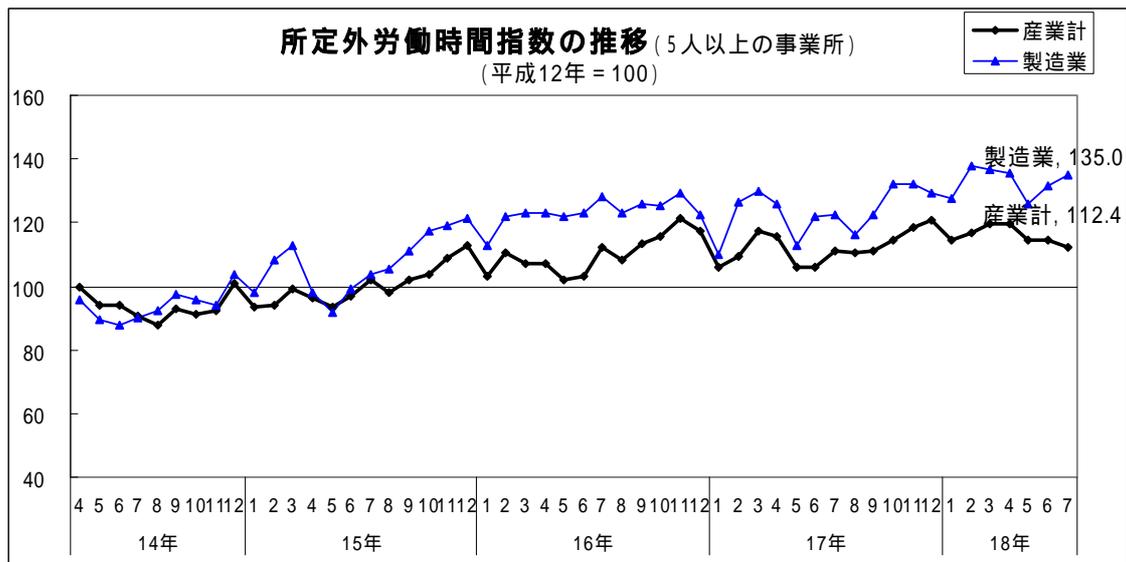
新規学卒者を除き、パートタイム労働者を含む。公共職業安定所への登録分。

資料：三重労働局「一般職業紹介状況」

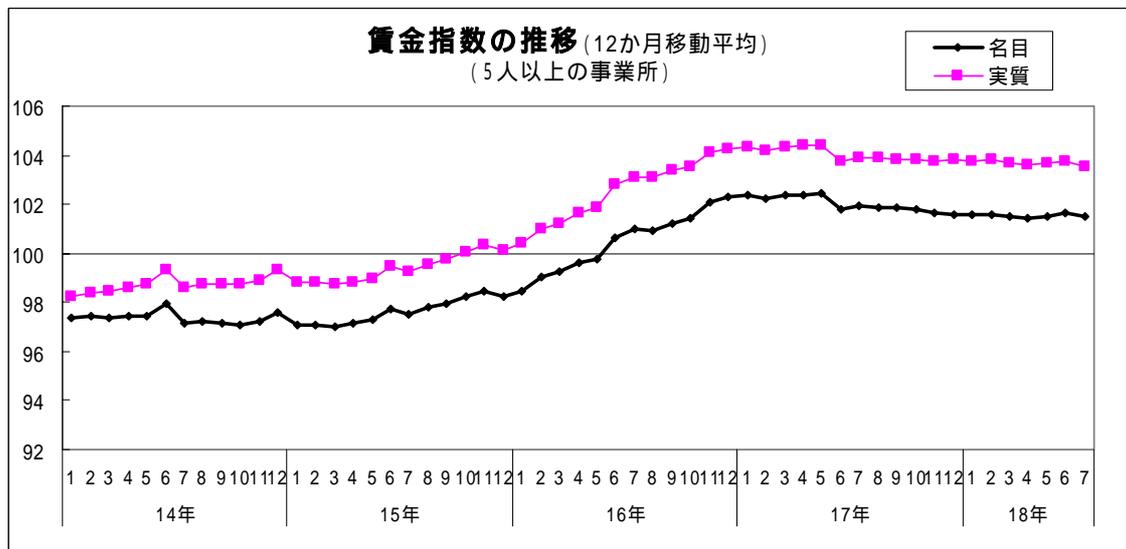
5. 労働時間・賃金 …増加している

残業時間数を表す所定外労働時間指数は、製造業を中心に漸増傾向にあり、需要増を背景に仕事量が増加していることを示している。

賃金指数（12ヶ月移動平均値）は、名目・実質とも横ばいで安定的に推移している。給与総額は、ボーナスを中心に増加しており、18年6月のボーナス（特別に支払われた給与）は、従業員5人以上の事業所で前年比3.3%増、100以上の事業所で6.5%増となった。



平成12年 = 100



平成12年 = 100

現金給与総額（定期給与 + 特別給与）

実質賃金指数は物価変動を取り除いたもの

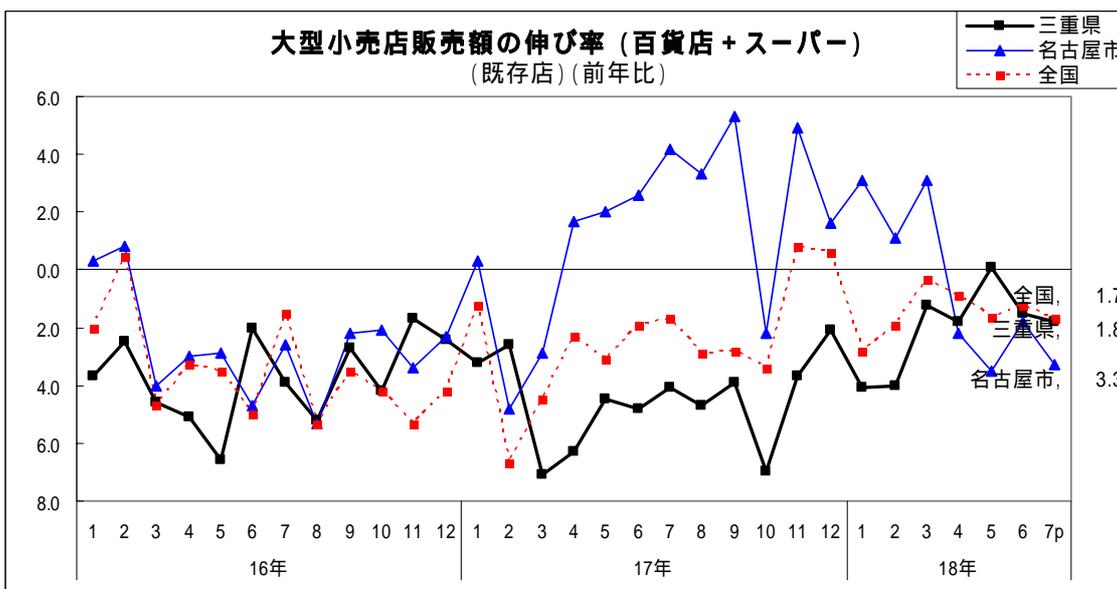
資料：三重県「毎月勤労統計調査」

6. 個人消費 …持ち直している

大型小売店販売額（百貨店＋スーパー）は全国同様に前年を下回っているものの、減少幅は縮小している。

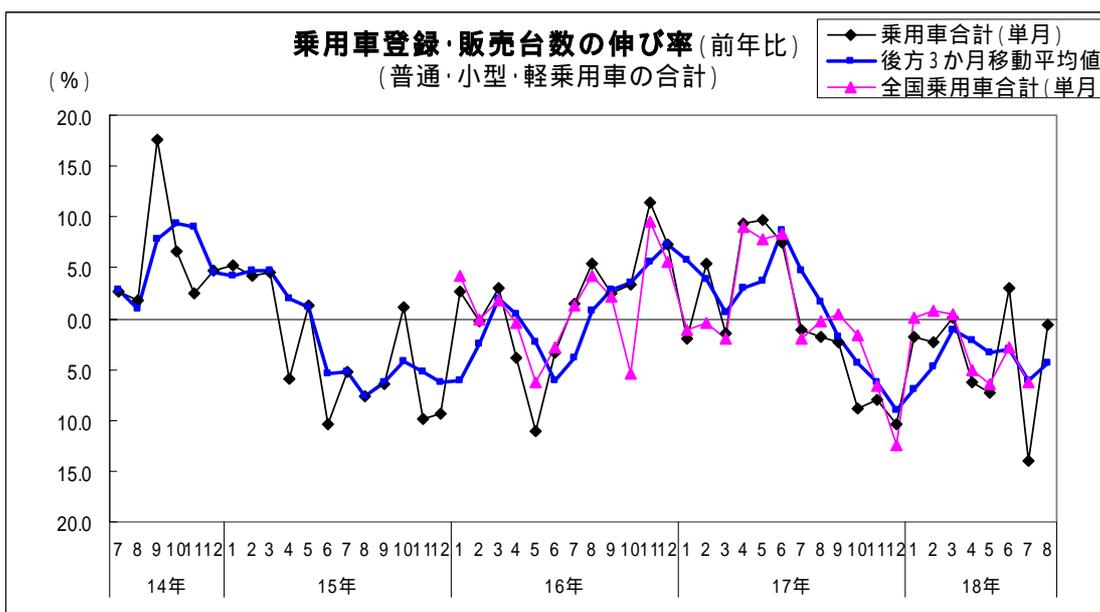
乗用車販売は、全国同様に、軽乗用車は好調を維持しているものの、普通乗用車、小型乗用車が前年を下回っている。

津市の勤労者世帯の1ヶ月間の消費支出は、足もとプラスを示している。

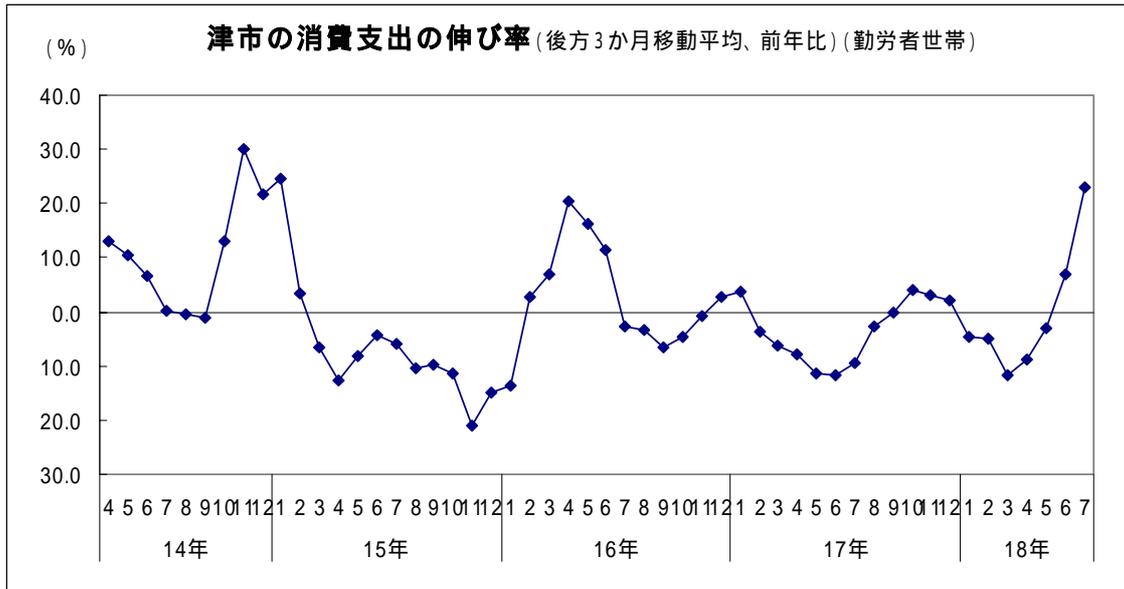


百貨店販売額＋スーパー販売額
店舗調整済み

資料：中部経済産業局「管内大型小売店販売額概況」、経済産業省



資料：三重県自動車販売協会、三重県軽自動車協会



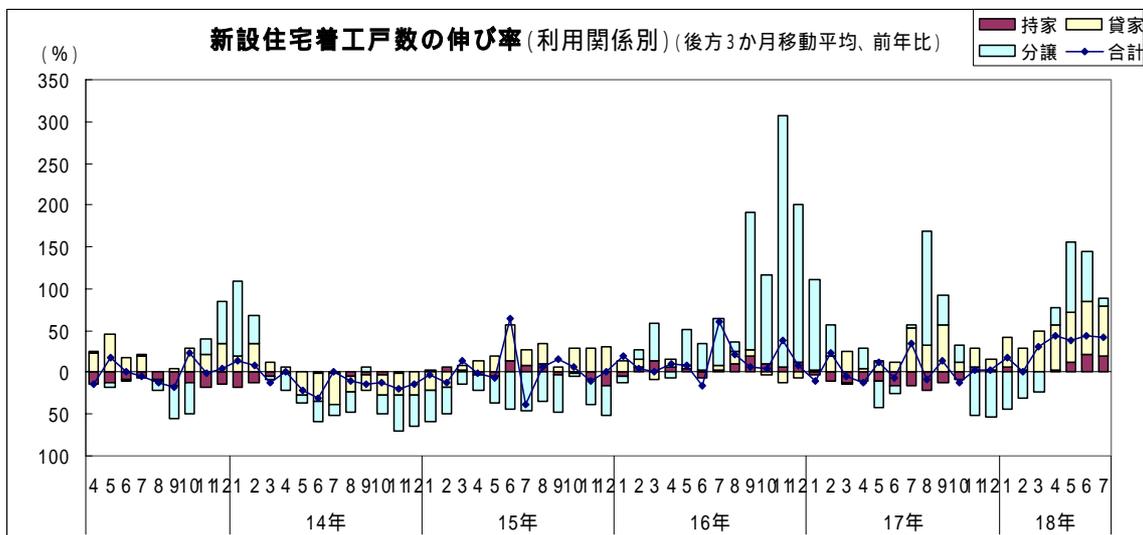
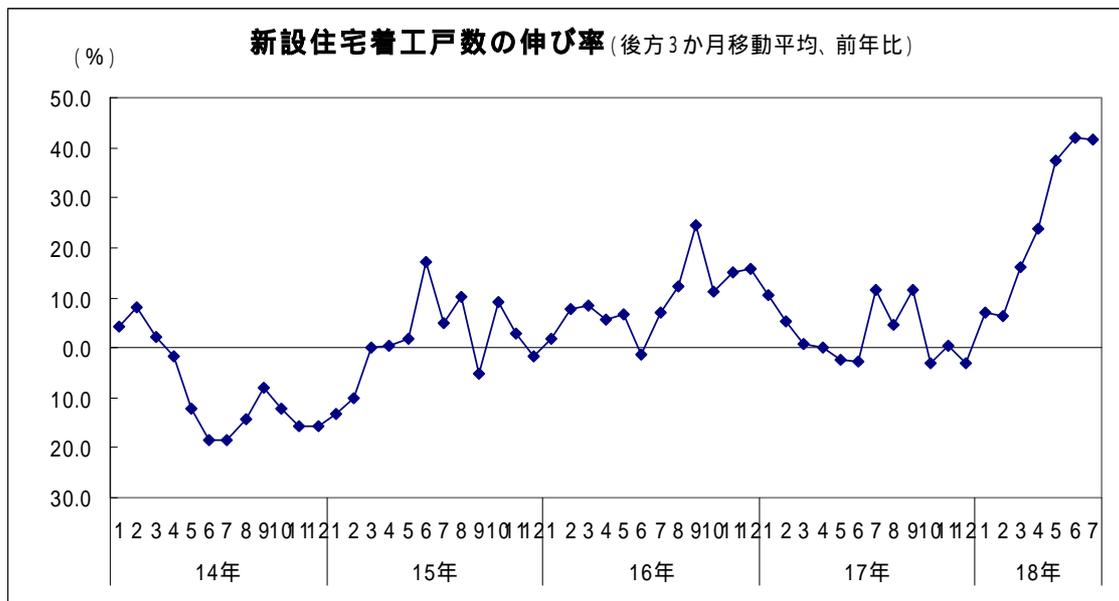
農林漁家世帯及び単身者世帯を除く

調査サンプル数が少数であるため、実態を反映しきれていない可能性がある。

資料：三重県「家計調査」

7. 住宅投資 …増加している

新設住宅着工戸数は、大幅に増加している。18年4～7月累計で、貸家、持家、分譲住宅、給与住宅のいずれもが前年を上回っている。貸家、給与住宅は、企業の進出や大手メーカーの相次ぐ工場建設などを背景に大幅な増加が続いている。持家、分譲住宅は、金利の先高感、地価の下げ止まり感などから増加しており、今後も増加基調が続くとみられる。



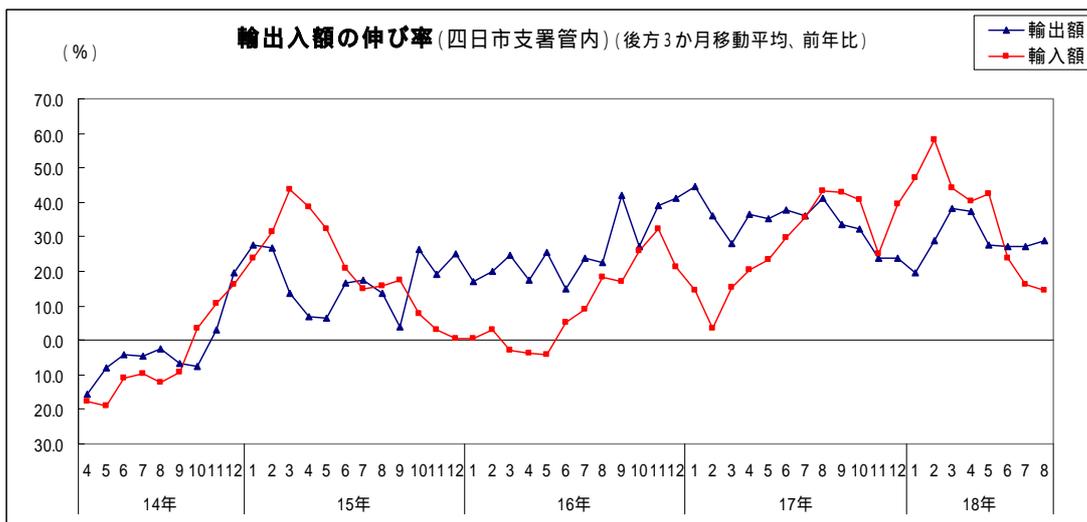
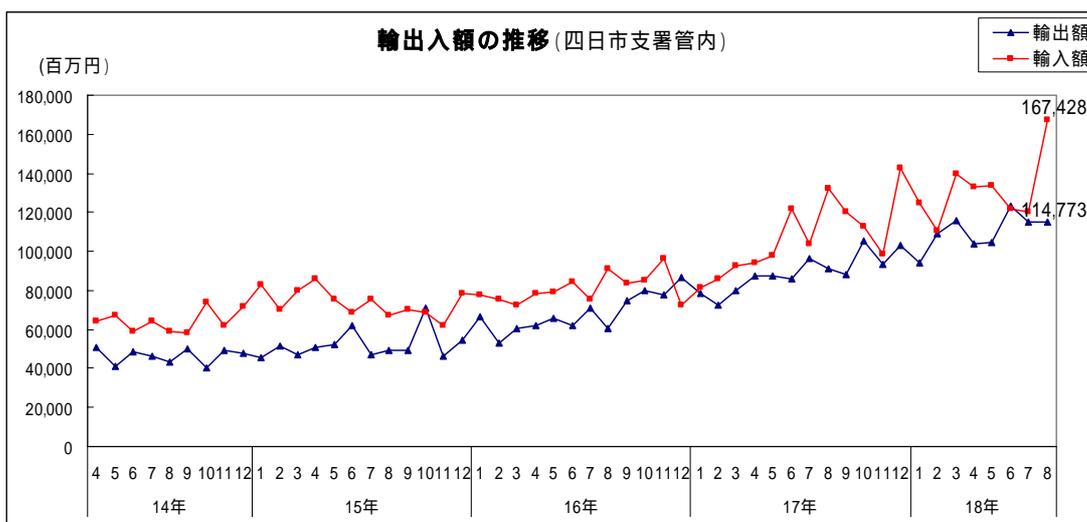
資料：国土交通省「住宅着工統計」

9. 貿易 …輸出・輸入ともに増加している

輸出額、輸入額ともに前年比増加が続いている。

輸出額は、構成比の高い乗用車や自動車部品をはじめ、音響・映像機器の部分品、電気回路等の機器、半導体等電子部品、有機化合物など、多くの品目が増加している。仕向国別では、米国向け、中国等のアジア向けなどが増加した。

輸入額は、全体の6割近くを占める原油・粗油が、価格高騰の影響で増加している。原油・粗油の輸入額は、18年上半期累計で前年を44%上回り、直近の18年8月も23%増となった。ほかに石油ガス類、生ゴムなども増加している。



四日市港、津港、尾鷲港の通関実績の合計額

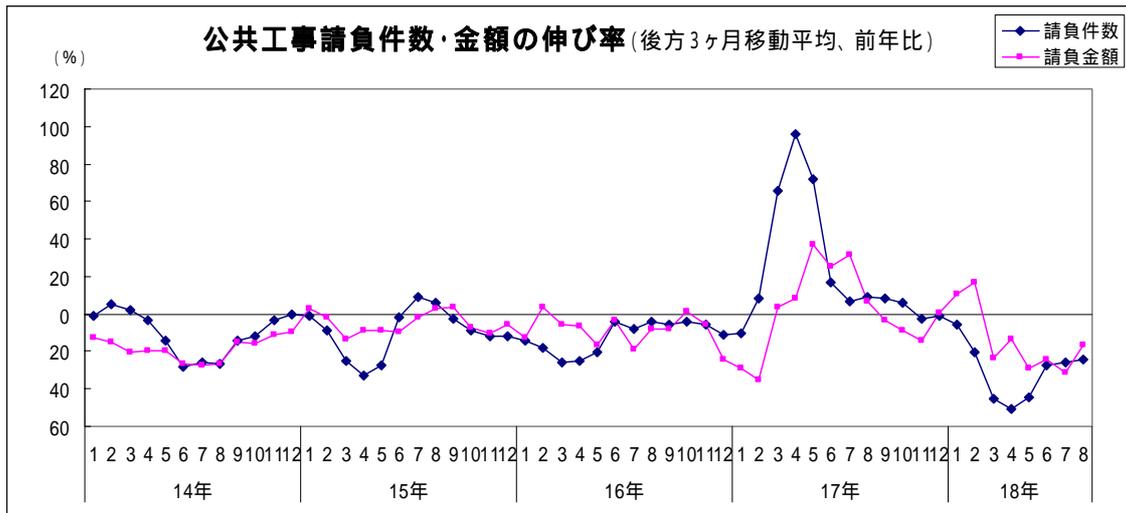
資料：四日市税関支署「管内貿易概況」

10 . 公共投資 …減少傾向続く

公共工事の請負件数・金額は、減少傾向にある。

18年度上半期は、第二名神関連、近畿自動車道紀勢線、四日市港霞ヶ浦北埠頭関連などの大型工事もみられたが、前年を下回って推移している。

地方自治体の歳出抑制傾向が強まるなか、発注額の7割以上を占める市町村と県をはじめとして、今後も公共投資を手控える動きが続くとみられる。



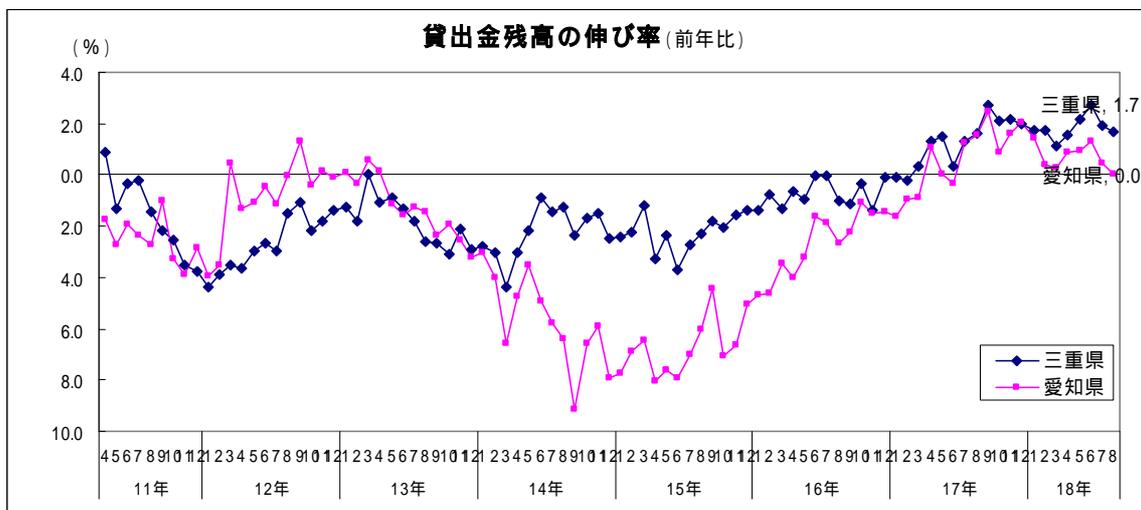
前払金保証取扱高 (工事場所ベース：工事場所が三重県であったもの)

発注者：国、公団・事業団等、県、市町村、地方公社、その他

資料：東日本建設業保証㈱「三重県内の公共工事の動向」

1.1 . 金融 …貸出残高は増加している

県内及び東海3県にある国内銀行の貸出金残高は、前年を上回っている。

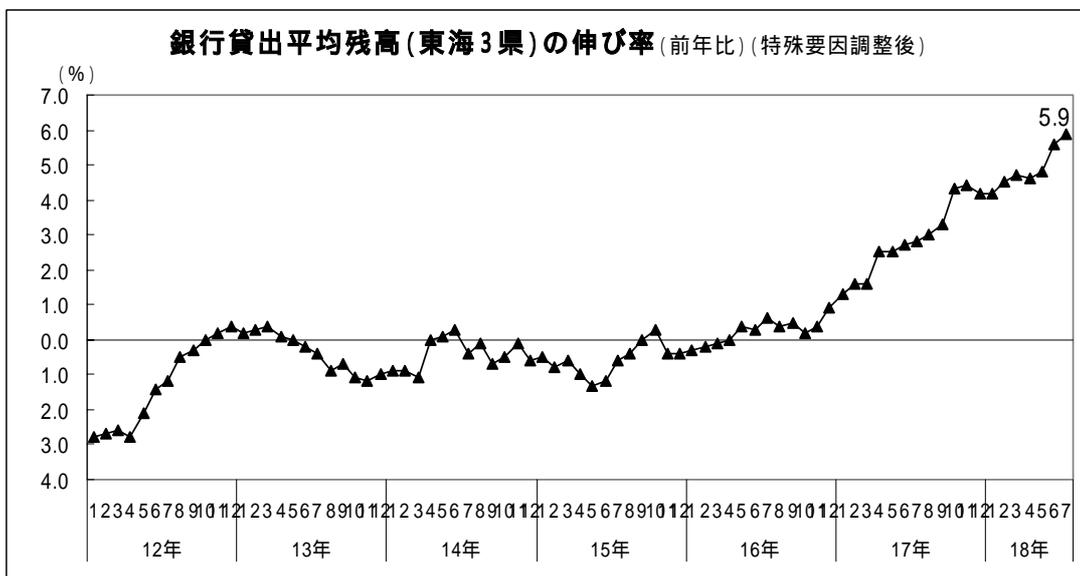


未残ベース

国内銀行銀行勘定

特別国際金融取引勘定を除く

資料：日本銀行



東海3県に本店を置く地方銀行4行、地方銀行 5行の合計

貸出債権の流動化による変動分、為替変動による外貨建貸出の円換算額の変動分、貸出債権の償却による変動分を調整した計数。

資料：日本銀行名古屋支店「最近の管内金融経済事情」